

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070104538
法人名	医療法人 潤生会
事業所名	たかまつグループホーム
所在地	〒641-0051 和歌山県和歌山市西高松1丁目5-36 (電話) 073-428-0617

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年1月22日
評価確定日	平成22年3月17日

【情報提供票より】平成 21 年 11 月 30 日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11 月 30 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮本医院、島本歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が母体である当該ホームは、重度化が進んできた中で積極的に看取りやターミナルケア体制の充実化を図りながら今出来る事に取り組んでいます。職員は理念のもとアットホームで自分や親の立場に立ったケアができるよう考え話し合いを持つ事で職員同士の連携もよく取れています。また、ケアプランと介護記録が連動できるように書類面での整備を行い誰が見てもわかるように工夫した様式を取り入れホーム便りと一緒に家族に送付し喜ばれています。また、家族会も避難訓練や敬老会、和歌山城にお弁当持参でお花見に行くなど行事と一緒にすることで参加も多く家族の要望等を聞くことができ家族と職員が1つになって歩まれているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であったケアプランと介護記録が連動できるように書類面での整備を行い誰が見てもわかるように工夫した様式を作りました。また、個人情報の記録物を鍵の掛かる事務所で鍵の掛かる机の引出しに保管するなど出来ることから改善に取り組んでいます。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に自由な意見を記入してもらったものを話し合い管理者がまとめました。作成後は、職員に見てもらっています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や民生委員、地域包括支援センター職員、幼稚園園長などが参加する運営推進会議を2か月に1回開催しています。ホーム状況を伝えその時の状況に応じた議題を用意して話し合い、意見やアドバイスを参加者から頂いています。また、避難訓練や行事と兼ねて会議を行うことで有意義な場となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を置いています。家族会には多くの参加があり意見や要望を聞いています。家族会の連絡網を作りたいとの意見があり、家族の同意を頂き作成することができ家族間の協力体制ができました。また、意見や要望が出た時には職員で話し合い改善策を家族に伝えています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していませんが、民生委員を通じて加入できるように働きかけています。地域での買い物や散歩で挨拶を交わし地域との交流に努めています。また、敬老会やクリスマス会にボランティアの来訪があり、地域での「よさこい祭り」ではホーム前で踊りがあり見学をしています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	アットホームで地域との繋がりを大切に自分や親の立場になってのケアが出来るようにとの思いから「一人一人に愛情をこめて！」とのホーム独自の理念を法人職員とホームの職員が開設時に話し合い作られました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関や事務所に掲示しています。常に自分や親の立場に立ってのケアが来ているか振り返り職員会議で話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していませんが、民生委員を通じて加入できるように働きかけています。地域の店に買い物に行き、散歩で挨拶を交わし地域との交流に努めています。また、敬老会やクリスマス会でボランティアの来訪や地域で開催される「よさこい祭り」ではホーム前で踊りがあり見学に行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、全職員に自由に意見を記入してもらったものを話し合い管理者がまとめました。前回の改善点であったケアプランと日々の介護記録が連動できるように様式を作りました。また、個人情報の記録物を鍵の掛かる事務所で鍵の掛かる机の引出しに保管するなど出来ることから取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員、地域包括支援センター職員、地域の幼稚園の園長などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホーム状況を伝えホームからの議題について話し合い意見やアドバイスなどを頂いています。また、避難訓練や行事と一緒に行事で有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは解らない事や疑問点などは何でも相談しています。市の要望で年に1回1年分の運営推進会議録も提出しています。また、地域包括支援センターがホームの近隣にある事で行事に参加してもらい気軽に何でも相談できる関係が構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に預かり金の収支報告、担当職員と管理者からの一言コメントを添えたホーム便りや毎日の介護記録を送付し家族から喜ばれています。また、来訪時には直接日々の暮らしぶりを伝え出納帳を確認してもらいサインを頂き、何かあれば電話で伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いています。家族会には多くの参加があり意見を聞いています。家族会の連絡網を作りたいとの意見があり家族の同意を頂き作成することが出来、家族間の協力体制ができました。また、意見や要望があったときには職員で話し合い家族に改善策を伝えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は新任職員が入ってきたら慣れるまで一緒にケアに当たっています。また、自由な発言や上下関係がない付き合いができるように取り組んでいます。職員がいつもと様子が変わった時や気になる時などには個別に話し合いを持ちコミュニケーションを多く取るように心がけ、退職者もみられていません。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議の中でその時の問題点や話題を課題として勉強会をしています。市の集団指導には管理者や職員が参加し、福祉関係者が集まるケアネット和歌山の勉強会に職員は順番に参加しています。参加後は報告書を提出し、資料を配布し伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の集まりや福祉関係者が集まるケアネット和歌山に参加して勉強会や意見交換を行い交流しています。今後、機会があれば相互訪問にも参加したいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の病院から入居となる場合が多くあり、家族には見学に来てもらい利用者には病院に面談に行き多くの情報を得ています。利用者の生活歴を大切に、利用者に応じた対応をすることで自然と馴染んでもらえるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までしてきた料理や洋裁、編み物など多くの事を教えてもらっています。日々、利用者とは過ごす中で会話を大切にコミュニケーションを多く取りながら利用者を理解し尊重して何でも話し合える関係作りに努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族にセンター方式での家族版を記入してもらっています。職員は日々の利用者とかかわりの中で状況に応じての行動や表情、態度、会話などのケアチェック表を作成して把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式やケアチェック表を利用して利用者一人ひとりの状況を把握し、作業療法士等が参加するカンファレンスを開催して介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回見直しをしています。全職員が参加する月間ミーティングで意見を出し合いモニタリングを行い、カンファレンスを開催し、ケアチェック表を更新し必要があれば医師や看護師の意見も取り入れて随時見直しに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や訪問理美容の支援をしています。重度化が進んできた利用者が多く希望や要望は少ないですが出来るだけ利用者の希望を聞きながら支援ができるように体制を整えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続できることを入居前に説明しています。母体が病院で隣接しているので24時間いつでも見てもらう体制が整い、職員に看護師がいる事で安心して生活が送られています。また、歯科医も近隣にあり必要があればすぐに受診できる環境にあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前、重度化に対するホームでの指針を説明し同意を頂いています。今までにも重度化に対応した経験があり家族や医師、看護師などその時の状況に応じた話し合いを持ちながら家族の希望に応じた支援ができるように取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族の了解を得て今まで呼ばれていた名前や利用者に応じた言葉遣い、排泄介助での声掛けや配慮した対応ができるように心がけていますまた、個人情報の記録物は事務所の鍵の掛かる机の引出しに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠まで一人ひとりのペースやリズムを大切にしています。表情や態度から利用者を理解しながら希望に応じた日々が送れる様に支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も取り入れ毎回職員が献立を考えています。野菜の下準備やお盆拭きなど出来る事に携わってもらっています。重度化が進んできた現状で誤嚥の心配や食事介助がほとんどで職員と一緒に食べることが出来ていませんが、お茶の時間には会話しながら楽しい時間を過ごし利用者の状況が変われば一緒に食事の時間を共にしたいと考えています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	10時から11時30分位まで毎日準備して、2～3日に1回は入浴できるようにしています。利用者に合わせ同姓介助や状況に応じて毎日入れる様にして、無理じいせず職員の工夫した対応で気持ちよく入れる様にしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度化が進んできた状況で日々の3度の食事や入浴が楽しみとなっています。常に何かをしてもらうのではなく出来る事に携わる事で楽しみを見つけることに努め、折り紙で鶴を折り季節の作品に張り付けたりする方や、花見や敬老会、クリスマス会など行事が楽しみとなっている方もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度化が進んできた中で戸外へ出かけることは難しい状況ですが、家族も一緒にお弁当持参で和歌山城に花見に出かけています。今後暖かくなってきたら日々の買い物や散歩には出来るだけ出かけられるように支援したいと考えています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2か所の幹線道路に面し、交通量も多くあり安全や外からの不審者侵入対策のため玄関の鍵はセンサーでの対応をしています。家族には状況を説明して同意をもらっています。運営者及び全ての職員が、施錠しないケアを理解していますが、利用者は重度化が進んでおり一人で外出を希望する方がいない状況です。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練をしています。1回は消防署立会いのもとで指導を受け運営推進会議と一緒にい民生委員や家族の参加があり消火器の使い方や避難経路など協力しての避難訓練となっています。また、ホーム独自でも家族参加のもと実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎回記録しています。ミキサー食や刻み食など利用者の嚥下・咀嚼状況に応じた食事を提供しています。食事介助の利用者が多くいる事で見守りを怠らず声掛けしながら食事介助しています。また、献立は法人の栄養士に見てもらいアドバイスをもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ前やエレベータ前にはベンチが設置されており、一息ついたり休憩するいい場所となっています。リビングでは、たたみコーナーがあり横になったり、多目的ルームを設け一人になりたい時やゆっくりと過ごせる空間があります。また、利用者が折られた白い折鶴で雪だるまを作るなど季節の飾り付けをしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や職員の手作り表札が飾られ、タンスや時計、椅子、編み物など今まで使っていたものを出来るだけ持ち込んでもらっています。ひ孫の写真やカレンダーを飾り、利用者の状況に応じて加湿器を家族と相談しながら置くなど居心地よく過ごせるようにしています。		